能「鉢木」の魅力とは

「スマート能楽」「第29回 キャスパ能」に解説者、演者として出演する能楽師の江崎欽次朗さんに、あらすじやみどころについて聞きました

大雪の夜、宿を求める旅僧（江崎欽次朗さん）が常世の家を訪れます。

雪の降る夜、常世と妻は大事にしていた梅松桜の盆栽を燃やして、僧をもてなします。

「鉢木」はどんな物語ですか。

ある大雪の夜、旅の僧が、佐野源左衛門常世（さののげんざえもんつねよ）の家に泊めてもらいます。常世は武士でしたが領地を横領され、貧しい暮らしを強いられていました。僧のために、大切な鉢の木、これは盆栽のことですが、鉢の木の枝を伐り火にくべながら「もし鎌倉で一大事が起これば一番に馳せ参じます」と語ります。

翌朝、僧は「鎌倉に来ることがあったら訪ねてきなさい」と告げて去っていきます。実は、その僧は鎌倉幕府の執権・北条時頼（ときより）でした。時頼が関東の武士に召集をかけると、常世は言葉通り真っ先に駆けつけます。時頼は常世に領地を返し、さらに鉢の木のお礼として新たな領地も与えた、というお話です。

能楽というより、時代劇のような印象を受けます。

能楽といえば、妖精や亡者が面（おもて）を付けて舞う「夢幻」「幽玄」のイメージがあると思いますが、この作品は人情物の名作で、「現在能」と呼ばれるものです。女性役以外は面を付けない「直面物（ひためんもの）」で、舞もありません。

写実的というか、演劇的というか、「型が多い」作品でもあります。たとえば舞台には作り物の盆栽が置かれ、積もった雪を払う様子、枝を伐る様子、火を焚いている様子などが分かりやすく表現されています。

「ベテランでなければ演じられない作品」と聞きました。

シテ（主人公）の常世の第一声は「ああ降ったる雪かな」です。雪がしんしんと降っている様子を表すだけでなく、落ちぶれてもなお武士の誇りを忘れないわが身を象徴する言葉でもあり、作品全体の出来を左右するほどの重要な台詞とも言われます。

わたしはワキ方（脇役）ですので、前半は旅の僧、後半は時頼を演じます。前半、後半ともにワキ方の見せ場がある作品は珍しく、僧の謙虚さと、最高権力者が醸し出す格調高い貫禄の両方を表現することから、実力が問われる難曲とも…… すみません、なんだか緊張してきました（笑）。

常世は、実直で心意気のある人物に思えます。

ワキ方の立場から言えば、この作品のみどころは「常世の生きざま」ではないかと思います。貧しい暮らしの中にあっても人として正しく生きてきた常世は、目の前の僧をもてなしたいという優しさと、そのために自分の宝物を火にくべてしまえる勇気を持っていました。土地が戻ってくるなんて考えていなかったと思うんですが、「情けは人のためならず」の言葉のとおり、人のために尽くしたことが返ってきたのだな、ちゃんと生きるってやっぱり素晴らしいな、と感じます。

「キャスパ能」に先がけて「スマート能楽」を開催されます。

「スマート能楽」は、作品を楽しむためのレシピのような、解説付きの公演です。わたしが講師を務めるアクリエひめじ文化講座の番外編として、昨年初めて開催しました。「高砂」「敦盛」「土蜘蛛」のダイジェスト版を上演し、お客さまに謡（うたい）を体験してもらったりもしました。

今年の「キャスパ能」の演目が「鉢木」に決まり、それなら今年の「スマート能楽」も「鉢木」にしようと。解説と公演、二つの催しを通じて、より「鉢木」の世界を味わっていただければと思います。

「鉢木レシピ」の内容は。

前半は、能楽についての解説のほか、「鉢木」の名場面と言われる「薪ノ段」を紹介します。僧のために大切な盆栽を火にくべる場面を、独調（謡と小鼓のみ）、独吟（謡のみ）でお聴きいただきます。

何度も聴いていただくのには理由があります。ベートーヴェンの「歓喜の歌」は超有名ですが、年末によく耳にする部分だけではなくて、前後に続きがありますよね。「第九」の第4楽章を最初から聴いていると、あのメロディが始まった瞬間……

「きたー！」となります。

そこを狙いたいんです（笑）。能楽は、現代のドラマや映画によくある「ネタバレ禁止」ではなく「確認の芸術」。事前に物語を知り、ストーリーを追って確認しながら楽しむものなんです。“鉢木レシピ”の後半では、解説を挟みながら「鉢木」を上演する予定です。

初めてのお店に入りにくいように、知らないものは怖いです。能楽は、知ればおもしろく、知っていると、より作品を楽しめます。昨年の「スマート能楽」でも「こんなに楽しいものだとは知らなかった」という声をたくさんいただきました。

ところで、能楽の演目はいくつくらいあるのですか。

800曲ほどあったそうですが、現行曲は210曲、よく上演されるのが約50曲です。地名や名勝が出てくる作品が多いので、そこへ旅行したような気分になれる「室町時代のVR」のようなものだったのではと想像しています。

能楽は何百年も前から受け継がれています。わたしは姫路藩のお抱え能楽師の家に生まれましたから、わたしが学んだことを次代に引き継ぎたいですし、皆さんにもお伝えしたいです。「なんか楽しい、なんとなくおもしろい」と感じてくださったなら、ぜひお友だちにも伝えてほしい。そんなふうに、これからも能楽が続いていけばいいなあ、と思っています。

ものがたり

大雪に遭った旅の僧が、上野国（こうずけのくに）（現在の群馬県）で一夜の宿を求めます。立ち寄った家の主、佐野源左衛門常世（さののげんざえもんつねよ）は貧しく粗末な家であることを理由に一度は断るのですが、妻の助言もあり、僧を追いかけて家に招き入れます。

粟の飯をすすめ、薪が尽きると丹精込めた梅、松、桜の鉢の木（盆栽）を伐り、火にくべて僧をもてなします。「これほど貧しくなったのは領地を横領されたからです」と述べる常世。しかし武士の誇りから「鎌倉で有事の際には、ちぎれた具足をまとい、錆びた薙刀を持ち、痩せた馬に乗って、一番に馳せ参じます」と語ります。翌朝、僧は名残を惜しみながら常世の家を後にしました。

しばらく経ったある日、鎌倉幕府の執権・北条時頼は関東一円の武士に召集をかけ、みすぼらしい武士を探し出すよう部下に申し付けます。実は時頼こそ、あの夜の旅僧だったのです。真っ先に駆けつけた常世を称え、横領された土地の回復を約束したほか、火にくべた鉢木の礼として梅、松、桜にちなんだ三カ所の領地も与えました。常世は喜び勇んで故郷へと帰っていくのでした。

北条時頼の召集を知り、常世は真っ先に馳せ参じます。

時頼は身分を明かして、孝行の礼として領地を与えます。

常世は所領安堵状を高く掲げ、喜び勇んで故郷へ帰っていきました。

いずれも大槻能楽堂（大阪市）、2023年 ©工房 円

PROFILE /

江崎欽次朗

ワキ方福王流能楽師。関西を中心に年間 100 ほどの舞台に立つ。2015 年 3 月、曾祖父の九世が名乗った「欽次朗」の字を使い、十二世当主を継承。2014 年、国重要無形文化財保持者（総合指定）認定。2018 年、兵庫県芸術奨励賞。アクリエひめじでは年間を通じて文化講座「江崎欽次朗の能楽ちょいかじり」の講師を務める。

令和6年 アクリエひめじ文化講座番外編
スマート能楽「鉢木」

出演／上田宜照（●●）、上田顕崇（独吟）、長山耕三（常世）、笠田祐樹（常世の妻）、江崎欽次朗（時頼） ほか
日時／8月18日（日）13：00～
場所／アクリエひめじ 小ホール
料金／一般3,000円、高校生以下1,000円（全自由席）
問 アクリエひめじ 079-263-8082

第29回 キャスパ能

演目／能「鉢木」 上田公威、江崎欽次朗 ほか
仕舞 田中章文、山田義高、上野朝義
日時／8月25日（日）13：00～
場所／姫路キャスパホール
料金／一般4,000円、高校生以下2,000円（全席指定）
問 姫路キャスパホール 079-284-5806

未

撮影：牛窓雅之